

長野県高等学校改革プラン推進委員会
(第1推進委員会)
報 告 書

平成18年2月7日

長野県高等学校改革プラン推進委員会
(第1推進委員会)

目 次

1 . はじめに	1
2 . 推進委員会の開催状況	1
3 . 教育委員会からの検討依頼事項について	3
3.1 「魅力ある高等学校づくり」に関する事項	3
3.2 報告書にある「総数の決定基準」に基づく、県立高等学校の再編整備 に関する事項	4
3.3 「総合学科高校」及び「多部制・単位制高校」の配置に関する事項	4
3.4 その他	5
4 . 県立高校再編整備候補案【第1通学区】について	6
4.1 飯山地区	6
4.2 中野市、須坂市を中心とした地区	6
4.3 長野市、千曲市周辺	7
4.4 多部制・単位制高校の候補	8
4.5 定時制・通信制課程について	9
5 . 実施計画策定に向けての要望	10
5.1 地域や教育現場からの意見の継続的聴取と高校教育改善への反映	10
5.2 高校再編の趣旨と内容及び効果の説明	10
5.3 実施計画の慎重な策定と早期実施	10
5.4 人的財政的支援を強く要望する	11
6 . おわりに	11
長野県高等学校改革プラン第1通学区推進委員会委員名簿	12
高等学校改革プラン第1通学区推進委員会の検討状況	13

1. はじめに

高等学校改革プラン推進委員会第1推進委員会は、平成17年5月29日、長野県教育委員会より委嘱を受けて以来、計19回の委員会を開催してきた。

この間、推進委員は「高等学校改革プラン推進委員会設置要項」に定められた、「魅力ある高等学校づくり」に関する事項、検討委員会最終報告書にある「総数の決定基準」に基づく県立高等学校の再編整備に関する事項、「総合学科高校」及び「多部制・単位制高校」の配置に関する事項、及びその他に関する事項について、委員それぞれの立場から検討してきた。加えて、各委員は高校改革に関する地域の各種会議に参加し、その内容を委員会において報告するとともに、県内外のいくつかの高校を視察し、先行する改革の現場の状況を把握することにも努めてきた。また、推進委員会において地域、団体からの意見・要望を聴取する機会を設け、寄せられた14団体の提案についても議論した。さらには、推進委員を直接訪問され説明を受けた内容や、推進委員宛に届けられた要望書等を委員会において報告するとともに、その内容について精査し、議論に反映してきた。

ここに報告する内容は、限られた期間において時間的にも情報収集の量においても、最大限有効な意見交換を行ってきた結果であり、付帯事項も含めて推進委員の総意である。

本報告書では、第2章に当推進委員会の開催状況を記載する。第3章では、委員会において出された主な意見を議事録に基づいて項目別にまとめる。第4章では教育委員会から提示された「県立高校再編整備候補案」について議論した結果をまとめる。第5章では、今後教育委員会において行われる予定の実施計画策定に向けて、推進委員会の要望をまとめて記載する。

2. 推進委員会の開催状況

第1回 5月29日(日) 14:00~16:00

- ・正副委員長の選出
- ・資料(最終報告等)の説明及び質疑応答
- ・高校改革に関する意見交換

第2回 6月25日(土) 9:30~12:30

- ・県立高校再編整備候補案について
- ・委員会の検討の進め方について
- ・魅力ある高校づくりと「総合学科高校」「多部制・単位制高校」について

第3回 7月14日(木) 9:30~12:30

- ・委員会の検討の進め方について
- ・魅力ある高校づくりと関連して、「多部制・単位制高校」について

第4回 7月25日(月) 13:30~16:30

- ・魅力ある高校づくりについて
- ・学校規模について

第5回 8月8日(月) 9:30~12:30

- ・総合学科について

第6回 8月25日(木) 9:00~12:00

- ・「県立高校再編整備候補案」の解説の説明及び質疑応答

第7回9月10日(土) 9:30~12:30

- ・総合学科高校について
- ・多部制・単位制高校について
屋代南高校を多部制・単位制の候補とすることが提案され、今後、候補案と併せて検討していくことを確認。

第8回 9月21日(水) 9:30~12:30

- ・多部制・単位制高校について

第9回 10月10日(月) 9:30~12:30

- ・地域からの意見聴取について
単なる存続要望でなく提案型の意見を一定期間内に募集し、発表してもらうことを決定。
- ・専門高校(工業科)について

第10回 10月26日(水) 9:30~12:30

- ・第1区・2区の再編整備について
中野高校と中野実業高校を統合して総合学科高校としていく方針を確認。

第11回 11月12日(土) 14:00~17:00

- ・地域からの提案発表(14団体)・・・質疑及び意見交換

第12回 11月28日(月) 9:00~12:00

- ・第1区・2区・3区の再編整備について
第1区の高校を将来的に1~2校に統合していく方向性について確認。

第13回 12月10日(土) 9:30~12:30

- ・第3区・4区の再編整備、報告書の作成について

第14回 12月17日(土) 9:30~12:30

- ・第4区の再編整備、多部制・単位制について
長野南高校と松代高校を統合する場合、松代高校でなく長野南高校の校舎・校地を使用していくことについても提案され、今後、併せて検討していくことを確認。

第15回 12月25日(日) 9:00~12:00

- ・第4区の再編整備、多部制・単位制について

第16回 1月7日(土) 13:30~16:30

- ・第4区の再編整備と報告書骨子案について

第17回 1月14日(土) 9:30~13:00

- ・第4区の再編整備と報告書について

第18回 1月29日(日) 9:30~13:10

- ・報告書について
- ・第3区の再編整備について
中条高校と犀峽高校を統合していくことについて合意。
- ・第4区の再編整備について
長野南高校と松代高校を統合していくことについて合意。
多部制・単位制高校は屋代南高校を転換していくことが優位として合意。
- ・定時制高校の再編整備について

第19回 2月4日(土) 13:30~16:30

- ・報告書について

3. 教育委員会からの検討依頼事項について

推進委員会においては、主に次の項目に関して広く議論がなされた。

推進委員会の進め方・あり方
中学生・保護者の意見・希望
魅力づくり
再編候補案について
財政
地域高校
規模，学級数，クラス人数
総合学科高校
職業科高校
多部制・単位制高校，定時制高校
高校改革の進め方
中高一貫ほか

推進委員会でなされたこれらの議論の内容を，推進委員会の設置要項に定められている次の4項目についてまとめる。

3.1 「魅力ある高等学校づくり」に関する事項

将来に対する生徒の希望の多様化，また不登校など様々な学習習慣を有する生徒がいることによる多様化により，高校の側も多くの選択肢を用意する必要に迫られている。前期選抜などにより志望を実現する機会は増えてきているが，さらに生徒の個性を磨き，キャリア教育などを進めるための新しいシステムが求められている。推進委員会では，高校の魅力づくりに関して検討委員会最終報告書にある「高校教育の柔軟化と多様化のために」に記載されているいくつかの項目が採り上げられ検討がなされた。

なかでも，総合学科高校と多部制・単位制高校は，魅力ある高校のシステムとして導入していく方向の発言が多くなされた。これらの高校の導入による魅力づくりにおいては，地域や学校現場，保護者，大学等の教育機関との連携が不可欠であるとの発言が多かった。また，総合学科高校については，キャリアプランニングの大切さが普通科と職業科の選択と絡めて議論された。さらに総合学科高校の持つ魅力，良さを子どもたちや親，地域の人たちにアピールすることも必要との指摘があった。

多部制・単位制高校の魅力については，定時制の集合体のような形ではなく新しい発想で，単位制を中心に多部制のメリットを生かしながら，新しいコース設定の中で子どもたちが希望の持てるような魅力づくりに努めていかなければいけないとの指摘があった。いくつかの定時制，通信制が多部制・単位制高校に再編されることから，定時制の持つ少人数や家庭的雰囲気の魅力についても引き継がれるようにすべきであるという意見が多かった。また，定時制の持つ家庭的な雰囲気が生徒に小規模だと感じさせていると考えられ，必ずしも人数が少ないことが魅力になっているわけではないとの指摘もあった。

このほか，中学生は基礎から学べる高校，人間的つながりを重視してくれる高校，部活が行える高校に魅力を感じている。これらに答えられる教員の資質も重要である。魅力づくりの中には人事や教員の研修も必要である。中高一貫も魅力あるシステムのひとつであり，ぜひ導入を検討

したいという希望も述べられた。単位制の学校では、編入学についても配慮を必要とすることや、総合選択制もひとつの魅力あるシステムであり学校のタイプの選択肢であることも話題に上った。

3.2 報告書にある「総数の決定基準」に基づく、県立高等学校の再編整備に関する事項

高校の配置を考える際には、学校の立地環境、近接校との距離、地域高校それぞれの歴史や特性も考慮しながら、子どもたちの通学を考えていかなければならない点では共通の理解が得られている。様々な場面でこれらのことに配慮すべき発言があった。また、やはり教育の充実のためには一定規模を確保していく必要性も重視され確認された。生徒数、学級数が減れば当然それに応じて教員の数が減る。多様な選択科目での習熟度別授業も難しくなるため、魅力づくりの前提としても一定の規模が必要である。

これらのことに配慮しつつ、通学区全体を考えると最終報告書に示されている基準にしたがって再編統合を進めていく必要があるが、再編に際しては、具体的な高校の実情に応じて十分検討しなければならない点も強調された。

30人学級についても導入の要望がいくつかあった。このことに関しては今回の高校再編は40人学級で考えていくことが基準になっていることと、現状でも習熟度別授業の展開など、実質的な少人数教育の実現がなされていること、生徒が魅力と感じているクラブ活動や生徒会、学校行事の実現充実を目指すことから生徒数が問題であり、学級の人数はそれほど影響を与えないことなどが指摘された。

また、小規模校の再編を考えるとともに、大規模校についても検討しなければならないこと、子どもたちが少数の中だけで生活する状況に対して、大きな集団の中でも十分自分の主張ができ、個性や能力を伸ばせることも大切であることなどが指摘された。

3.3 「総合学科高校」及び「多部制・単位制高校」の配置に関する事項

総合学科高校と多部制・単位制高校は、魅力ある高校のシステムとして導入していく理解が得られた。推進委員が県内外の関連する高校を視察し、現地を直接見て詳しい説明を受けたことにより、総合学科高校と多部制・単位制高校の導入の利点と課題が把握でき理解が深まった。

総合学科高校は画一的なものではなく学校ごとに特徴を出すことが可能であり、転換する前の高校の特色や地域性も十分考慮して、系列の内容を設定していく必要性が議論された。また、総合学科では専門性が薄れる懸念があることなど抱えている様々な課題についての全国の様子などが紹介された。予想される課題については詳細に情報を収集し、そこに陥らないようにあらかじめ配慮していくべきこととされた。

多部制・単位制高校に関しては、全日制普通科との併設も検討に上がったが、教室や体育館などの使用に関する制約から独立校舎である必要性も挙げられた。また、広範囲から生徒が通い、多部制であることから通学の利便性に配慮する必要性が強調された。このため、鉄道の利便性やより多くの生徒の通学に便利な市街地もしくは市街地近郊への配置が検討された。長野市内への配置も議論された。

多部制・単位制は定時制に代わり得るものではない部分もあるとの主張から、いくつかの現状の定時制も存続させていく必要性も指摘された。その際には定時制に通う必要がある生徒の通学の利便性に配慮するとともに、残していく定時制の魅力をつくりながら充実していく必要も挙げ

られた。定時制では家庭的な雰囲気、生徒に小規模だと感じさせていることや、通学範囲に関しても駅や勤務の都合などいろいろな理由で、必ずしも近距離でないといけないというわけでもないことが指摘された。

総合学科高校や多部制・単位制高校は、新しい学校のシステムであり、総合学科の系列に合わせた施設設備、多部制・単位制高校の多くの科目の設定に伴う教室や学習室、相談室、社会教育のための施設などが必要であり、科目の充実に対する人的配慮とともに財政面での配慮の必要性が述べられた。

ひとつの高校を教育システムの異なる総合学科高校や多部制・単位制高校に転換する場合の課題について種々議論した。転換の際には、教育現場や地域の理解と協力が不可欠である。

3.4 その他

- ・高校改革の進め方について、多くの意見をいただいた。慎重に進めるべきとする意見が主である。
- ・推進委員会の役割と進め方、地域の意見の反映の仕方について多くの意見をいただき、その都度議論しながら進めてきた。
- ・地域や団体の意見を聴取する機会を設け14件の発表をしていただき、討論した。地域の要望等を推進委員会の議論に反映してきた。
- ・進路選択と関連して、教育のあり方にも触れられた。子どもたちのキャリア教育に関して、中学との連携や職業選択の観点から種々議論された。また画一的ではなく子どもたちの個人個人の能力を伸ばして社会へ出てもらえば、今の社会が求めている人材となる。また、企業の立場や普通科との関連から職業科のあり方と専門教育について議論がなされた。生徒の持っている能力は、早くから見いだして延ばすべきだが、これはひとつのものを選ぶということに特化していくということになる。どんな職業についてもやっていけるような人間を育てていくというのが、学校教育である。持っている能力をできるだけ具体化してやるのが大事な視点である。1人1人の子どもの良さ輝きをしっかりと把握する教師の資質が必要である。
- ・高校再編の進め方について、中学生や保護者、地域からの不安の声が紹介された。入学してきた生徒については卒業まで必ず責任を持つということ、教育委員会として説明をしてほしい。具体的に名前が出た高校を希望する生徒が不安に思っている。部活動で後輩はいなくなるのではないかと、野球部に入りたいが3年生になったらどうなるのかといったことや、現実には子どもたちが学校を選択していかなければならない現状である。名前が挙がった地域に、県教委から同窓会、市町村教委、受験を目指す中学生や保護者に説明をすることが大事である。
- ・実施計画策定に向けての要望もあがっている。時間的にも財政的にも確実な実施計画を早期に示すべきである。

4．県立高校再編整備候補案【第1通学区】について

教育委員会から示された「県立高校再編整備候補案」に対して、推進委員会において議論した結論または方向性について地区ごとに分けて記載する。また、付帯事項として再編整備に向けて要望のあった内容についてまとめる。

4.1 飯山地区

飯山照丘高校，飯山北高校，飯山南高校の統合

【第1推進委員会で議論された方向性】

- ・第1区においては、当面の間、飯山照丘高校，飯山北高校，飯山南高校を統合した1校と下高井農林高校1校の2校への再編を想定する。
- ・その際、生徒数の推移等を勘案して、飯山北高校と飯山南高校の校地・校舎を利用し、最終的には飯山北高校の校地・校舎に統合する。

【再編整備に向けての要望】

- ・飯山照丘高校，飯山北高校，飯山南高校の3校には、コース制，理数科，体育科があり，これらの特徴を十分生かした新しい学校をつくっていききたい。
- ・3校の統合にあたっては，コース制を十分活用して幅広い学力の生徒に対応したい。
- ・体育科，理数科の特色を生かして行くには，一定の規模を確保する必要がある。また専門性のある教員を十分に確保していく必要がある。
- ・飯山南高校体育科及び飯山北高校スキー部の活躍は国際的レベルにあり，地元のスキー産業とともに大事にしていかなければならない。
- ・複数の校舎を使用し，いかに教育課程を編成するか，あるいはコース制をとっていかかなど十分検討する必要がある。また，教員の移動等，支援が必要である。
- ・統合し新しい学校としてスタートする際には，2校舎を使う際に生じる課題に配慮し，校舎の改築や施設の整備を前倒しで進めてほしい。
- ・将来6学級規模が予想されるため，最終的には，再編整備により誕生する新しい普通高校と下高井農林高校をさらに1校に統合していけるように，相互に授業を交流させながら学校間連携を進めていく。
- ・これらの高校再編を進めながら，地域の子どもたちは地域で教育し地域の次世代リーダーを育成していく観点から，連携型や併設型などの中高一貫教育の導入を検討していく。

4.2 中野市，須坂市を中心とした地区

中野高校，中野実業高校の統合と総合学科高校への転換

【第1推進委員会で議論された方向性】

- ・総合学科高校は，魅力ある新たなシステムと考え，導入していく。
- ・長野市内に立地する市立皐月高校が総合学科高校への転換を決めていることから，県立の総合学科高校は，設置する距離を保った北の方の中野市内に配置し，子どもたちの多様性に対応する可能性を拡げていく。
- ・総合学科高校の目指している特徴と学校規模や施設設備の観点から，中野高校と中野実業高校を統合する。中野実業高校の校舎・校地を利用して，総合学科高校に転換していく。

- ・市立皐月高校はスポーツ・健康，国際・人文科学，環境・情報，福祉・生活科学の4つの系列を設置することが決まっている．県立の総合学科高校は，再編する元の高校が持つ特徴を生かした系列を整備していく．系列名が同じでも特色ある内容設定ができる．

【再編整備に向けての要望】

- ・総合学科高校における専門教育では，基礎教育を含め，実験，実習を充実してほしい．
- ・基礎学力のレベルを上げることがもっとも必要なことである．基礎学力のアップによって，進学対応も図れる．
- ・総合学科高校のカリキュラムでは地域の個性を強調するような，地域の主体性を前面に出した編成を行いたい．
- ・総合学科の充実については地域との連携，地域からの支えが不可欠である．そのため高校教育を地域から支えるための連携に力を入れるべきである．また，地域の特色を生かしつつ，魅力ある高校をつくりあげていく．
- ・学力等多様化した生徒も受け入れられる総合学科にしてもらいたい．
- ・教育内容やカリキュラムを十分検討する期間を設けてほしい．
- ・施設設備にお金がかかる系列もある．十分な財政的な援助を行っていただきたい．
- ・今後更なる高校再編が考えられるため，須坂地区の高校に関しても，生徒数の動向を勘案し，将来的な再編を視野に入れて考えていく必要がある．

4.3 長野市，千曲市周辺

中条高校，犀峽高校の統合

【第1推進委員会で議論された方向性】

- ・中条高校と犀峽高校は，より広範囲から通える地域高校として統合し，地域から長野市方面への通学に関してより遠い犀峽高校の校地・校舎を利用していく．
- ・中条高校と犀峽高校の両校舎を使ったジョイント校としての魅力づくりも検討されたが，両校の距離の問題から採用を深く検討するまでには至らなかった．
- ・長野市内の高校の分校化の案も検討されたが，実質的なメリットが無いと判断された．
- ・中条高校を地域の特徴を生かした高校として，また少人数の魅力ある高校として存続させていく方法を種々検討したが，地域からの通学よりも長野市からの通学者が多い現状と，長野市内の高校に通い一定規模を確保した高校において教育を受けるメリットを勘案すると，統合はやむを得ないと考えられる．

【再編整備に向けての要望】

- ・長野市街地方面や中条・小川方面からのバスなどによる通学の利便性を確保する必要がある．
- ・地域高校は地域にとって人材育成や地域の活性化，文化の拠点との役割が大きく，地域高校を残していくことは大変重要なことである．しかしながら，すべての地域高校を存続させていくことには無理がある．
- ・統合により，校地校舎を利用しなくなる高校は，地域との関係を保ちながら高校生あるいは中学生の交流施設として活用する方法をぜひ考えていただきたい．
- ・中条高校のコース制や犀峽高校の部活動など両校の実践してきた魅力づくり，特徴は統合後も継承していただきたい．

長野南高校，松代高校の統合

【第1推進委員会で議論された方向性】

- ・第1通学区全体を考えた場合，しばらくは生徒数の減少が緩やかであるにしても，すでに学校数を減らさざるを得ない状況であり，将来的な生徒数の減少も考慮すると，現時点での生徒の流入の状況からは，この2校の統合はやむを得ないと考えられる．
- ・統合の際，地域の生徒の通学に配慮しつつ，地域と連携した教育実績を活かすことができ，他地区からも複数の通学手段が選択できる松代高校の校舎・校地を活用することが考えられる．
- ・地域の15歳年齢人口の減少状況や宅地造成等による地域の発展性から，長野南高校の校舎・校地を活用することが考えられる．

【再編整備に向けての要望】

- ・長野市南部の人口の動向や募集の状況からは，長野南高校と松代高校はすぐにも再編・統合が必要な状況にはないと判断できる．
- ・4区においては，全日制普通科の多部制・単位制への転換も考えられており，普通科の選択肢が減ることが懸念される．再編整備にあたっては十分配慮すべき点である．

4.4 多部制・単位制高校の候補

屋代南高校の多部制・単位制高校への転換

【第1推進委員会で議論された方向性】

- ・多部制・単位制高校は魅力ある新たなシステムとして導入していく．
- ・多部制・単位制高校は各通学区に1校ずつ設置されることと，多様な学びのスタイルに対応したシステムであることから，通学区内の生徒が多く集まりやすく夜間部の生徒の通学にも配慮して，できるだけ交通の便が良いところに配置することが望ましい．
- ・地域連携の中で多部制・単位制高校の魅力を実現していく上では，地域の産業や文化歴史等の地域性を活用し教育に生かしていくことが大切である．これらの点では，候補案として考えられた坂城高校と推進委員会の対案として考えられた屋代南高校のある，坂城町と千曲市はそれぞれに特徴があり，両校に関して遜色はないと考えられる．
- ・第1通学区内において，できるだけ多くの生徒が通えるところ，及び現在定時制や通信制の設置されている第2通学区の上田市及び長野市などの都市部からの通学の利便性も考慮し，候補案が坂城高校の多部制・単位制高校への転換であることに対して，推進委員会で対案のあがった屋代南高校を多部制・単位制高校に転換することが優位であると考えられる．

【再編整備に向けての要望】

- ・多部制・単位制高校には夜間定時制とは異なった魅力があり，多部制高校を希望する生徒の通学の利便性も考慮する必要がある．
- ・地域の産業との連携を重視し，インターンシップなどの体験的学習や，地域の歴史文化を合わせて学ぶことができる地域性が必要である．
- ・転換する前の高校が行っていた魅力づくりは，自由度が大きい多部制・単位制の中で継続して

いくことが可能であり，実現していただきたい．

- ・多部制・単位制高校及び定時制高校では少人数教育の必要性とメリットを重視してもらいたい．
- ・多部制・単位制への転換にあたっては，多部制・単位制の魅力である生涯学習という観点及び年齢を超えての交流という観点から，施設・設備の面で財政的支援が必要である．
- ・既存の高校から多部制・単位制高校への転換に際してはいくつかの課題が考えられる．地域と連携していく上でも，多部制・単位制の魅力の実現とともに，これらの課題について十分配慮し，地域の理解を得ていく必要がある．
- ・4区においては，普通科2校の統合も考えられており，普通科の選択肢が減ることが懸念される．再編整備にあたっては十分配慮すべき点である．

4.5 定時制・通信制課程について

長野吉田・長野商業・篠ノ井高校の定時制，長野西高校通信制の多部制・単位制高校への統合

【第1推進委員会で議論された方向性】

- ・夜間定時制及び通信制の果たす役割は重要である．これらに通う生徒の利便性を確保しながら，夜間定時制の役割を含めた新たな魅力あるシステムとして多部制・単位制高校が導入される．
- ・多部制・単位制高校の配置に伴い，長野吉田高校，長野商業高校，篠ノ井高校の定時制及び長野西高校の通信制を統合することが考えられる．
- ・長野高校定時制と長野工業高校定時制，及び中野高校と中野実業高校の統合校に設置する定時制は，夜間定時制を希望する生徒のためと多部制・単位制高校の設置に伴う再編のため，これまで通り整備充実を行い維持していく必要がある．

【再編整備に向けての要望】

- ・全日制の学校に設置されている夜間定時制については，夜間定時制と全日制の授業やクラブ活動における施設・設備の利用状況を踏まえ，お互いに不便が生じないように整備していく必要がある．
- ・推進委員会では多部制・単位制の導入に関する議論を数多く行うと同時に，定時制・通信制の高校に再編に関する検討も行った．再編にあたって生じる個々の定時制，通信制高校の課題については十分配慮しなければならないことが指摘された．
- ・既存の定時制に多部制・単位制の利点や要素を一部導入する方向も検討すべきである．

5．実施計画策定に向けての要望

5.1 地域や教育現場からの意見の継続的聴取と高校教育改善への反映

高校改革は長野県高等学校改革プラン検討委員会において平成15年度から検討され、その内容は平成17年3月に「長野県高等学校改革プラン検討委員会最終報告書」にまとめられている。その審議過程では、県民アンケートが行われ、県内12地区における懇談会も開催されている。第1通学区においての地域懇談会は、飯山市民会館、須坂メセナホール、長野市民会館、篠ノ井市民会館において開催されている。また、「中間まとめ」公表後は、「高等学校改革プラン懇話会」が検討委員会と平行して開催され、高校改革へ向けての意見・要望が検討委員会へ逐一報告されている。さらには、中学校、高等学校からの意見聴取やパブリックコメントも実施された。

このように、改革に向け各段階に応じて県民意見の聴取とその反映がなされてきていると考えられる。一方で、「最終報告書」にもあるとおり、具体的にどのように改革に対応するかは地域で衆知を集める必要があり、高校再編の具体像の審議は基本的に地域にゆだねるとされている。各通学区に設けられた「推進委員会」は、高校再編の具体像について議論する場であった。第1通学区の推進委員は、時間的な制約のある中で必ずしも十分と言えないが、可能な限り議論に資するための資料や情報の収集に努め意見交換を行って来た。

教育は長い間の時間で行われるものであり、その課題については日々改善されていくべきものと考えられる。また、これまでに教育委員会によって行われてきた高校改革の進め方は、長野県独自の方法であった。今後の教育内容に関わる各学校のシステム改善の努力に関しても、関係者の理解と協力無くしては改革は成功しないことを念頭に置き、地域や生徒を含めた教育現場からの声を聴取し、それらを反映した高校教育改善を継続的に行っていくことが必要である。

5.2 高校再編の趣旨と内容及び効果の説明

地域や教職員、生徒、そして県民の理解を得ながら高校再編を実現していく上では、高校改革に伴う再編整備の趣旨と内容及びその効果について、実施主体である教育委員会からの十分な説明が不可欠である。教育委員会は長野県の高校教育を運営・実施してきた専門的見地から、実施段階に応じた適切な説明を行うことを継続していただきたい。

5.3 実施計画の慎重な策定と早期実施

生徒数の減少は平成2年以来顕著でありながらも、昭和61年から公立全日制高等学校数90校（県立及び市立）を維持したままである。平成17年から平成31年の生徒数の推移は、増減とほぼ横ばいの時期はあるものの、17,920名から15,000名へと約3,000名の減少が予想されている。この影響はクラス数の減少に顕著に表れ、更なる小規模校を生じることが予想される。

ある一定規模のクラス数がなければ、教科に対する教員数の確保が難しく、教員の多大な努力にもかかわらず、専門性を高め、習熟度に応じたきめ細かな対応や魅力ある授業展開をするための時間を確保していくことは相当の困難を伴う。さらには、生徒の期待が大きい、きちんと学べる環境や部活動の充実に関しても大きな不利益となっている。

一定規模の学級数の確保は教育の充実を図る上で目指すべき方向である。すでに、小規模校となっている学校がある。さらにこの傾向は進むことが予想されている。また、生徒の多様化が進んでおり、魅力づくりに関する各校の様々な努力があるとはいえ、学ぶ機会を保障する点からも魅力ある新たなシステムの導入が必要である。よって、実施計画策定時に確実な実施時期を定め、その計画を早期に示し、さらには、実施計画に基づいてすみやかに実施し、高校に学ぶ生徒及びこれから進学する生徒の充実した教育を受ける権利を保障していかなければならない。実施計画

の慎重な策定とともに、実施においては、地域を含めた関係者の理解と協力を得る調整を図りながら、再編整備に伴う予算確保も含めて、着手できるところからの段階的实施も考慮に入れて行っていただきたい。

5.4 人的財政的支援を強く要望する

再編を進める過程においては、在校生の教育環境の維持に配慮することがぜひ必要である。また、統合し新しい学校としてスタートする際には、校舎の改築や施設の整備は欠かせないものである。新しいシステムの導入に伴い必要な施設設備の予算付けはいうまでもなく、再編に伴い生じる生徒や職員の負担に十分配慮し、人的な支援にも力を入れてほしい。

6. おわりに

改革は全体を見渡し大きくシステムを変えるときに必要な行動であり、未知なるものへ進む不安を必ず伴うものである。改革は未来のために行う。未来である子どもたちのためのものである視点を失ってはならない。教育の目的や効果は長い時間の後に現れるものであり、教育の現場においては、改革を行う以前の絶え間ない改善が必要である。新しいシステムにおいては導入後にも様々な課題を解決しながら進める必要がある。今回の高校改革において再編の対象とならなかった高校においても、今後より一層の魅力づくりを進める必要がある。高校は、生徒や同窓生、教職員、地域の人々の熱意や努力なくしては魅力あるものとはならない。子どもたちが学び育つ上で、関係者の理解と協力を切にお願いしたい。

何よりも高校で学ぶ生徒が、生き生きと勉学と自己研鑽に努められるようなシステム作りへの努力を惜しんではならない。高校改革プランの中で巻き起こったすべての議論の継続を望む。

長野県高等学校改革プラン第1推進委員会
委員長 中村正行

長野県高等学校改革プラン第1通学区推進委員会委員名簿

		氏 名	職 業 ・ 役 職 等	
第 1 通 学 区 推 進 委 員 会	地 自 域 治 関 体 係 及 者 び	青 木 一	中野市長	
		中 沢 一	坂城町長	
		小 山 元 彦	飯山市教育委員長	
		森 野 貞 雄	飯綱町教育委員長	
	有 識 者	塚 田 芳 樹	蔦友印刷(株)代表取締役社長	
		牧 重 信	(株)ニットー代表取締役専務	
		中 村 正 行	信州大学工学部助教授	
		市 川 浩 一 郎	元教員評価検討委員会委員	
	学 校 関 係 者	保 護 者	若 麻 績 享 則	柳町中学校保護者
			清 水 保	須坂高等学校保護者
		校 長	坂 口 昌 夫	櫻ヶ岡中学校長
			小 山 壽 一	飯山北高等学校長
		教 員	宮 本 精 一	屋代中学校教諭
			丸 山 稔	中野高等学校教諭

委員長 副委員長

高等学校改革プラン第1通学区推進委員会の検討状況

回数	日時	場所	検討事項
第1回	5月29日(日) 14:00～16:00	県庁	・正副委員長の選出 ・資料(最終報告等)の説明及び質疑応答 ・高校改革に関する意見交換
第2回	6月25日(土) 9:30～12:30	県庁	・県立高校再編整備候補案について ・委員会の検討の進め方について ・魅力ある高校づくりと「総合学科高校」,「多部制・単位制高校」について
第3回	7月14日(木) 9:30～12:30	県庁	・委員会の検討の進め方について ・魅力ある高校づくりと関連して「多部制・単位制高校」について
第4回	7月25日(月) 13:30～16:30	県庁	・魅力ある高校づくりについて ・学校規模について
第5回	8月8日(月) 9:30～12:30	県庁	・総合学科について
第6回	8月25日(木) 9:00～12:00	県庁	・「県立高校再編整備候補案」の解説の説明及び質疑応答
第7回	9月10日(土) 9:30～12:30	長野県職員センター	・総合学科高校について ・多部制・単位制高校について
第8回	9月21日(水) 9:30～12:30	県庁	・多部制・単位制高校について
第9回	10月10日(月) 9:30～12:30	県庁	・地域からの意見聴取について ・専門高校(工業科)について
第10回	10月26日(水) 9:30～12:30	NOSA I 長野会館	・第1区・2区の再編整備について
第11回	11月12日(土) 14:00～17:00	県庁	・地域からの提案発表(14団体)と質疑及び意見交換
第12回	11月28日(月) 9:00～12:00	NOSA I 長野会館	・第1区・2区・3区の再編整備について
第13回	12月10日(土) 9:30～12:30	県庁	・第3区・4区の再編整備,報告書の作成について
第14回	12月17日(土) 9:30～12:30	県庁	・第4区の再編整備,多部制・単位制について
第15回	12月25日(日) 9:00～12:00	県庁	・第4区の再編整備,多部制・単位制について
第16回	1月7日(土) 13:30～16:30	県庁	・第4区の再編整備と報告書骨子案について
第17回	1月14日(土) 9:30～13:00	県庁	・第4区の再編整備と第1～16回まで議論された事項の確認について
第18回	1月29日(日) 9:30～13:10	長野県社会福祉 総合センター	・第3・4区の再編整備,多部制・単位制,定時制の配置と報告書案について
第19回	2月4日(土) 13:30～16:30	県庁	・報告書について